

西ノ野遺跡

第1次発掘調査報告書

鈴鹿市遺跡調査会

鈴鹿市考古博物館

例 言

1. 本書は鈴鹿市国府町字西ノ野20-112に所在する西ノ野遺跡の店舗建設に伴う発掘調査の報告書である。調査面積は160 m²であった。
2. 現地調査および整理作業は原因者からの委託を受け鈴鹿市遺跡調査会（会長 市川年夫）が行なった。
3. 調査期間は平成4年5月11日～5月22日である。
4. 調査および遺物整理は鈴鹿市教育委員会文化課 浅尾悟（当時）が担当した。
5. 本書は浅尾悟が執筆した原稿を、鈴鹿市考古博物館 藤原秀樹が編集した。
6. 本書における方位は方位北を用いている。
7. 位置図には国土地理院発行の1/25,000地形図『鈴鹿』『亀山』の一部を用いた。
7. 図版・写真および出土遺物は鈴鹿市国分町224の鈴鹿市考古博物館で保管されている。

目 次

例言・目次

1. 調査にいたる経緯	1
2. 位置と歴史的環境	2
3. 検出遺構	2
4. 出土遺物	3
5. まとめ	3
報告書抄録	9

挿図目次

第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡	1
第2図 出土遺物実測図	3
第3図 西ノ野古墳群分布図および調査区配置図	4
第4図 遺構配置図	5
第5図 西ノ野13～15号墳配置図	5
第6図 遺構断面図1	6
第7図 遺構断面図2	6

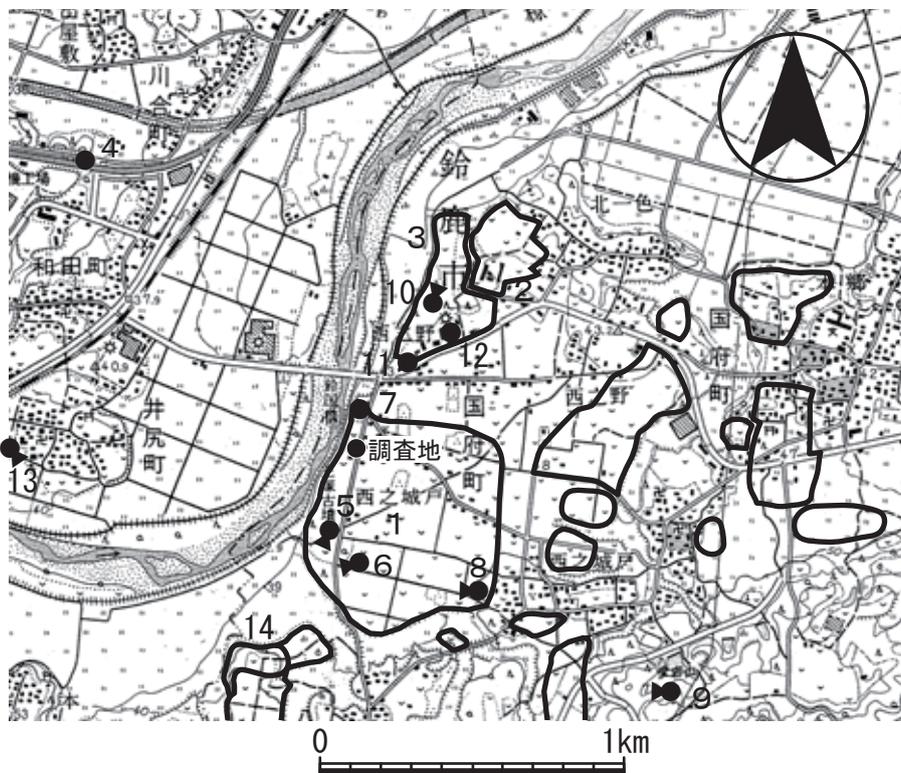
図版目次

写真図版1 調査前の状況／15号墳周溝／14号墳周溝／調査風景／SX1（13号墳）	9
写真図版2 SK02／SK03／出土遺物	10

1. 調査にいたる経緯

1991年3月、イシバシ工業株式会社から国府町字西ノ野地籍の土地（面積1,872㎡）を資材置場にする旨の開発協議がもたれた。鈴鹿市教育委員会文化課では当該地が周知の遺跡である西ノ野遺跡の範囲内であり、かつ縄文土器・須恵器・土師器・石器等の散布がみられるため、鈴鹿市管理課を通じて開発を行なう場合には必ず文化課と事前の協議を行うように指示した。しかし、その後協議は持たれず、造成工事も行なわれないうまま1年あまりが経過した。

1992年3月、三重県文化財パトロール員より当該地が重機により掘削され、古墳の周溝が3・4基確認されているとの通報があった。これを受けた文化課は早々に現地を確認したところ、地表を覆う黒色土（クロボク）が取り去られた状態であった。ただちに、イシバシ工業と連絡を取り工事の申止と事前調査の必要性を申し入れた。しかし、当該地はすでに丸宮不動産を仲介に個人に転売したとのことで、文化課と売却を受けた人物および丸宮不動産との3者で協議がもたれた。その結果、当初の開発区域の南半分は資材置場のみに使用するため埋め戻して現状復帰するが、北半分約500㎡は店舗が建設されるため現状保存が困難であることが確認された。事業者は文化財保護法に基づく「埋蔵文化財発掘の届け出（57条の2）」の提出を求めると共に、鈴鹿市遺跡調査会を受託者として委託契約を締結して発掘調査を実施することとした。鈴鹿市遺跡調査会では文化財保護法に基づく埋蔵文化財発掘調査の届け出（57条の1）」を文化庁長官宛てに提出すると共に、鈴鹿市教育委員会文化課指導主事 浅尾悟 を調査員として派遣を受け発掘調査に当たらせることとした。調査は1992年5月11日に着手し、5月22日に現場作業を終了した。



1. 西ノ野遺跡・古墳群
2. 北一色遺跡
3. 保子里遺跡・古墳群
4. 上椎ノ木1号墳
5. 西ノ野1号墳(王塚古墳)
6. 西ノ野5号墳
7. 西ノ野4号墳
8. 西ノ野11号墳
9. 愛宕山1号墳
10. 保子里1号墳
11. 保子里18号墳
12. 保子里13・14号墳
13. 井尻古墳
14. 八野遺跡・古墳群

第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡 (1/25,000)

2. 位置と歴史的環境

西ノ野遺跡（1）は鈴鹿川中流域右岸の河岸段丘縁辺に位置し、付近は古墳を中心に遺跡密集地帯となっている。北一色遺跡（2）は縄文時代を中心とした遺跡で、1968年に一部が発掘調査され、縄文時代中期から晩期にいたる土器と、晩期の竪穴住居等を検出した。

北一色遺跡の周辺には保子里古墳群（3）が散在する。1号墳は全国的にも珍しい双円墳とされ1899年に土地の人たちが発掘して、組み合わせ式石棺と共に銅鏡（五獣鏡）を始めとする銅鈴、刀、須恵器、玉類などの多数の副葬品が出土した。その他、保子里13号・14号・18号墳が発掘調査され、保子里古墳群は6世紀始めから7世紀始めにかけて墨墨と築造されたものである。また、1989年の保子里遺跡の調査では、古墳に葬られない身分の人々の土壙墓が古墳に近接して多数発見されている。さらに、1999～2000年に実施された保子里遺跡の調査では古墳時代各期の竪穴住居が100棟あまり検出されていて、古墳築造の基盤となった中心的集落とみられる。鈴鹿川を隔てて対岸にはこの地域の初現的な古墳である椎ノ木古墳（4）が1989年に調査され、四神鏡を始めとする副葬品から4世紀後半の時期が考えられている。

西ノ野遺跡周辺には多数の古墳が築造され、明治期の村絵図（国府小学校蔵）には91基もの古墳が記されている。その後の開墾により多くは失われ、現在は墳丘を残すものとしては11基を数えるにすぎない。中でも西ノ野1号墳（王塚古墳）（5）は、鈴鹿川流域を代表する首長墓である。全長63m、周堤を有する前方後円墳で、国史跡に指定されている。また、王塚古墳の南東に位置する西ノ野5号墳（6）は全長30.5mの前方後円墳で、陪塚5基（かつては8基）を廻らす古相の古墳である。また、調査区の北方約70mに位置した西ノ野4号墳（7）は、1960年に発掘調査され、径10m、高さ1.5m程の円墳で、礫槨など3つの主体部が検出され5世紀後半の築造と推定された。また、本調査区のすぐ北東で、本調査の直後に個人住宅建築に伴う第2次調査が実施され、円墳の周溝の一部（16号墳）と土壙墓3基が検出されている。

3. 検出遺構

調査の結果、円墳1基（SX1）、土坑2基（SK2、SK3）が検出された。

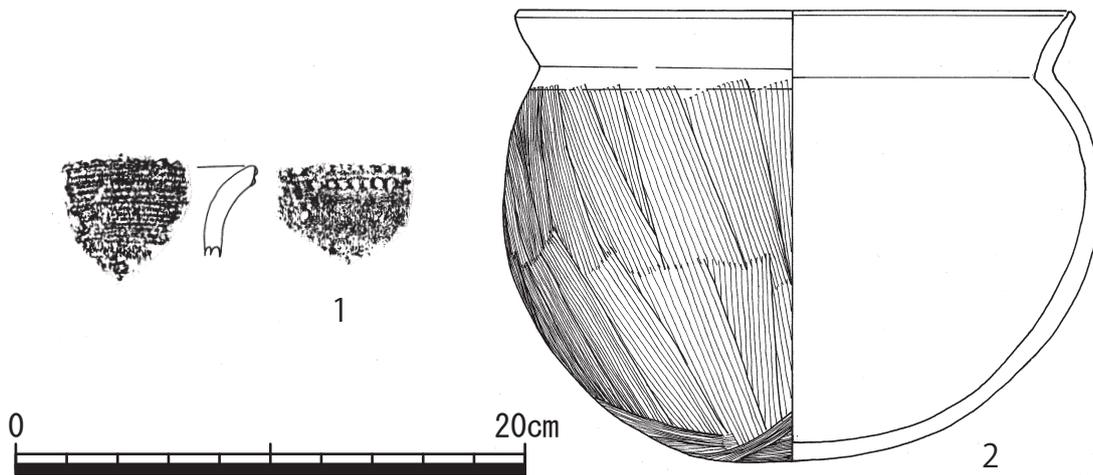
SX1……円墳である。西ノ野13号墳と命名する。封土は既に無く、周溝のみの検出となった。南北径11.5m、東西推定径11.5mのほぼ真円に近い円墳である。周溝は北側が広く、南側が狭い。内面は傾斜が急で、最大幅は1.7m、最小幅は0.5m、最大の深度は検出面より0.45mを計測する。

SK2……13号墳内の中央で検出された土坑で、南北に長い不整形土坑である。南北2.0m、東西1.0m、深さは検出面より最大0.5mを計測する、南端にピット状の落ち込みがある。出土遺物は全く無く、時期は不明である。

SK3……13号墳周溝東脇で検出された土坑である。ややいびつな長方形を呈し、南北2.0m、1.0m、深さは検出面より0.2mを計測する。出土遺物は全く無く、性格・時期等は不明である。

※調査区の南側で、最初の表土掘削時に確認された古墳の痕跡2基について、略側図を作成したので記述する。

西ノ野14号墳……13号墳の南約25mの地点に南北に並立して14号墳がある。周溝の南部が



第2図 出土遺物実測図 (1/3)

現存の住宅下にあるため全形は不明であるが、東西径 12.0 m、南北推定径 13 m 程の円墳になるものと考えられる。周溝幅は東西地点で約 2.0 m、北側で約 3.0 m を計測する。深さは北側の一点で約 0.4 m を測る。

西ノ野 15 号墳…… 14 号墳の西約 25 m に位置する。すぐ西は鈴鹿川が形成する段丘崖であり、その縁辺に位置する。確認の範囲が周溝の東北部約 1/4 であるので、全形は不明であるが、径 11 ~ 12 m 程の円墳であろう。周溝は幅約 3.5 m 程で、深さは約 0.6 ~ 0.7 m で他の古墳 2 基に比べやや深い。

4. 出土遺物

縄文土器深鉢 (1) …… 調査区付近からの表採遺物である。細片で口径等は不明である。口縁端部には貝殻条痕による刻み目が見られ、縄文時代晩期の土器と考えられる。

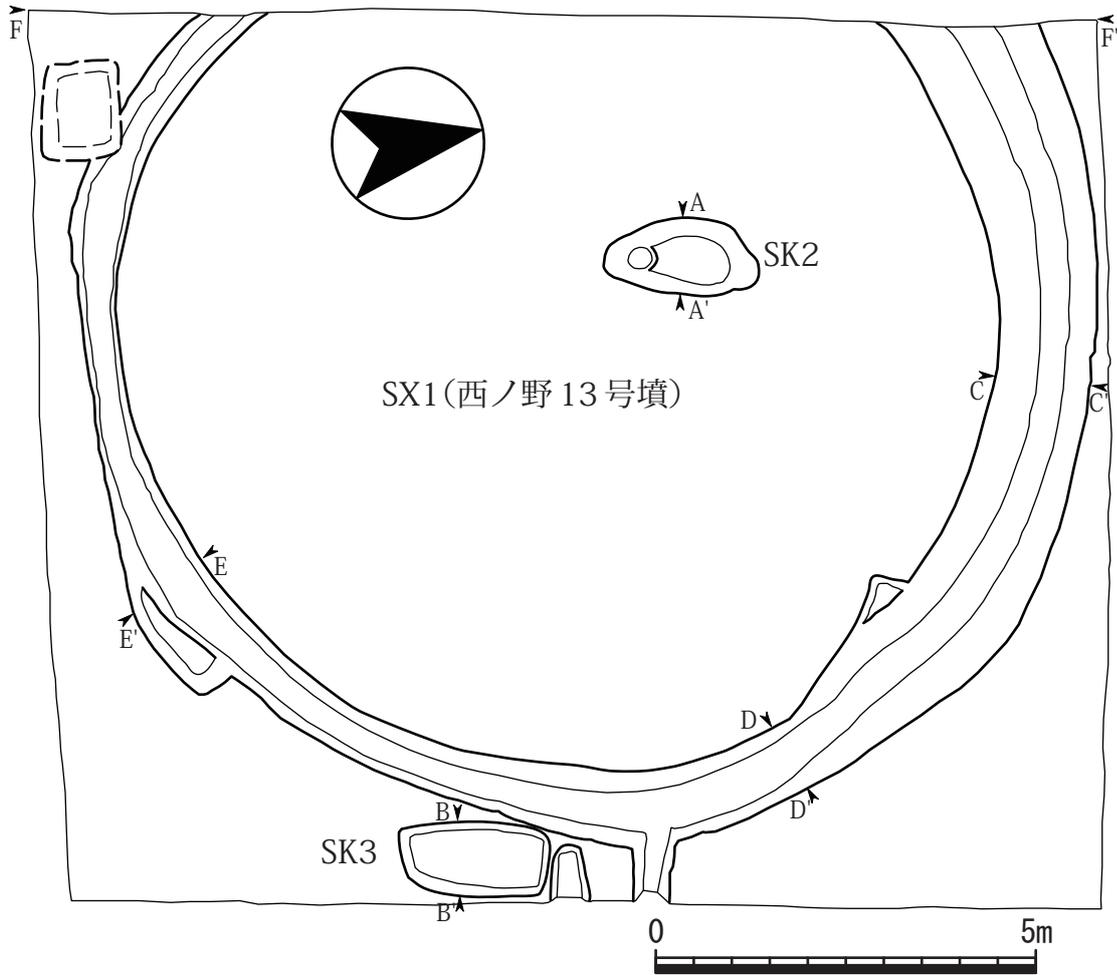
土師器甕 (2) …… 西ノ野 13 号墳の南周溝の上層で出土した土器で、ほぼ 1 個体分まるごと出土した。口径 21.2 ~ 21.7 cm、器高は 17.7 cm を計測する。口縁部はヨコナデ、体部はやや扁平で、全域を刷毛目成形、口縁は「く」の字状に屈曲し、端部は細く終わる。

5. まとめ

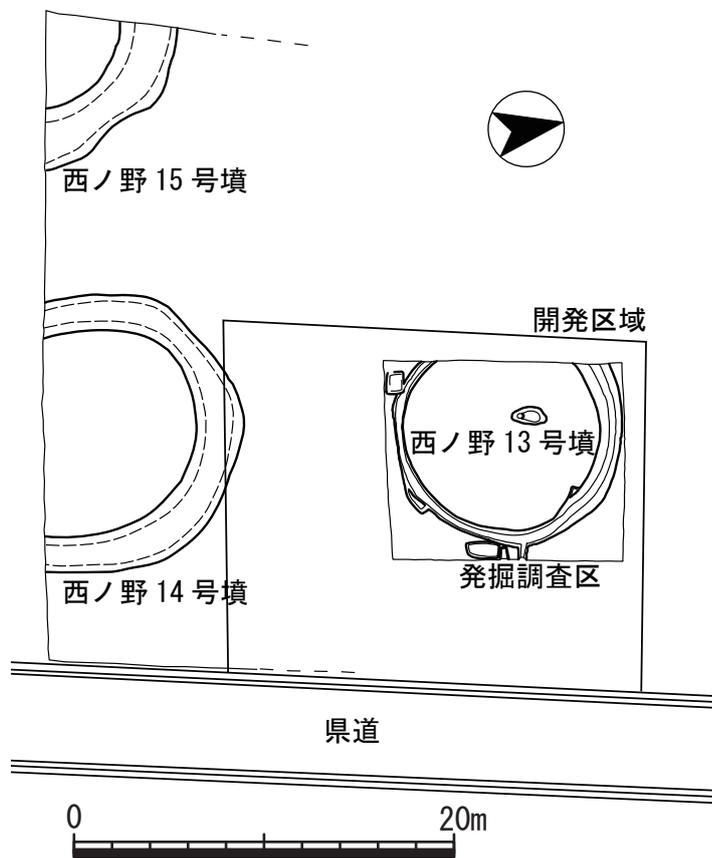
今回の調査区一帯は、明治期の村絵図には 91 基もの古墳が記載されており、かなりの数の古墳密集地帯であったことがわかる。今回調査・確認した 3 基の古墳もその古墳群の中のひとつに他ならない。径 11 ~ 12 m の円墳は古墳として決して大きいものではないが、保子里古墳群のごとく墳丘の規模が小さくとも首長層の古墳も少なからず存在する。古墳の築造時期は、墳丘が無く、詳細は不明であるが、周溝埋土上層から出土した土師器甕は 6 世紀代の時期が考えられ、その時期を上限とすることができようか。また、土坑 2 基については、遺物等の出土がなく、時期、性格等は不明であるが、埋土からみて近年の土坑ではなく、形状から土壙墓の可能性も考えられる。

西ノ野遺跡では、縄文土器及び石器が表採され、何らかの縄文時代の遺構の存在が予想されたが、今回の調査区内では明確な縄文時代の遺構は確認されなかった。

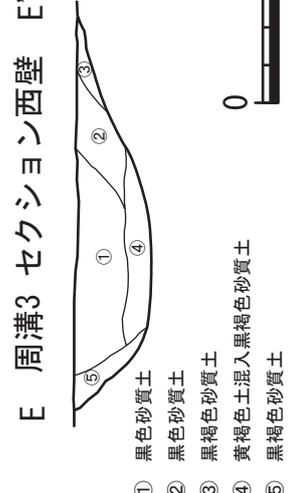
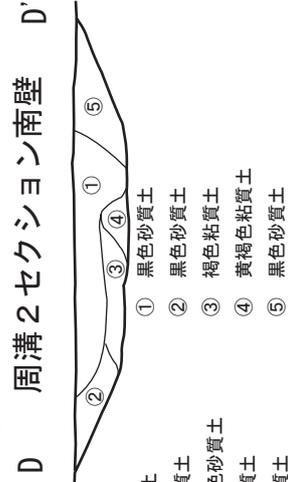
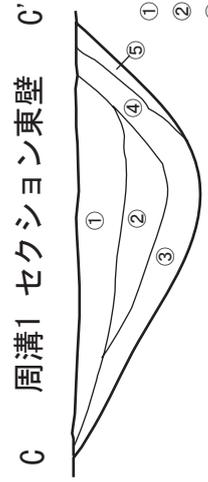
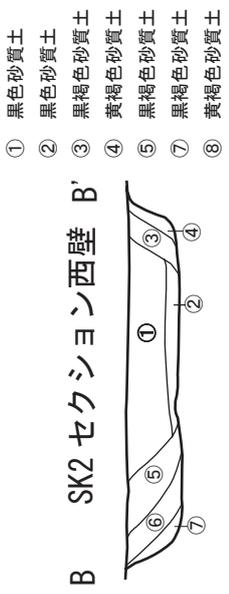
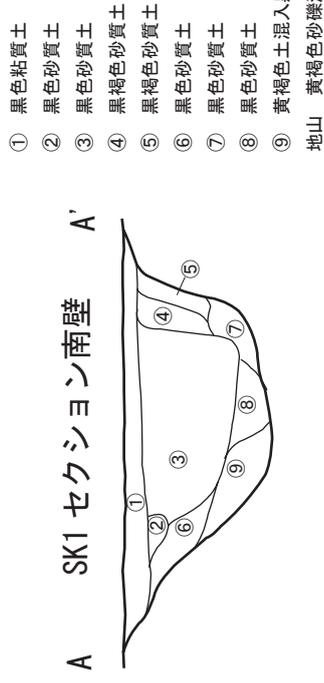
今後も墳丘を削平され位置が不明になった古墳の発見が予想されるため、この周辺での開発には十分な協議と配慮が望まれる。



第4図 遺構配置図 (1/100)

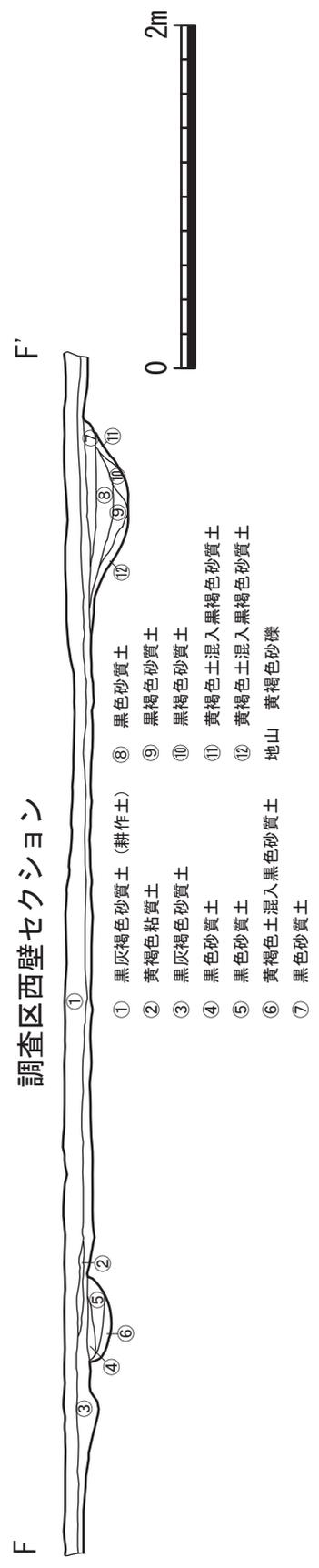


第5図 西ノ野 13~15号墳配置図 (1/400)



第6図 遺構断面図1 (1/20)

調査区西壁セクション



第7図 遺構断面図2 (1/40)



調査前の状況



15号墳周溝



14号墳周溝



調査風景(西から)



SX1:13号墳(東から)



SX1(北から)

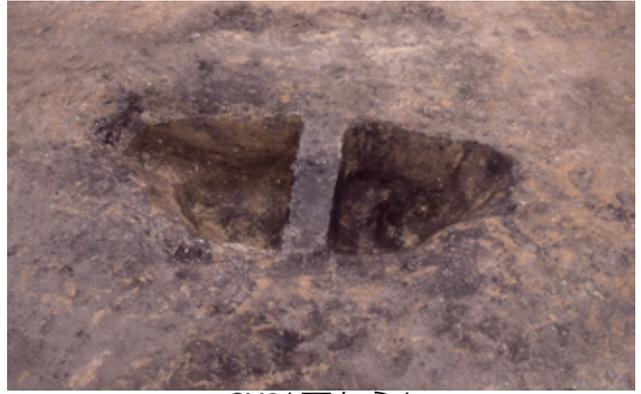


SX1(南から)

写真図版 2



SK2(南から)



SX2(西から)



SK3(南から)



SK3(西から)



縄文土器 (1)



土師器 (2)

報告書抄録

ふりがな	にしこのいせきだいいちじはくつちようさほうこく							
書名	西ノ野遺跡第1次発掘調査報告							
編著者名	浅尾 悟、藤原秀樹							
編集機関	鈴鹿市遺跡調査会、鈴鹿市考古博物館							
所在地	〒513-0013 三重県鈴鹿市国分町224番地							
発行年月日	2006年1月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
にしこの 西ノ野	みえけんすずかし 三重県鈴鹿市 こうちようあざにしこの 国府町字西ノ野 20-112	24207	160	34° 51' 04"	136° 29' 40"	19960511 ~ 19960522	160 m ²	店舗建築
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
西ノ野	散布地	古墳		周溝・土坑		縄文土器・土師器		直径10.5mの 円墳（西ノ野 13号墳）

西ノ野遺跡

第1次発掘調査報告

平成18年2月1日

編集 鈴鹿市遺跡調査会

刊行 鈴鹿市考古博物館

〒513-0013

三重県鈴鹿市国分町224

TEL059-374-1994

印刷 早川印刷株式会社

